



令和4年3月31日

岩倉市議会

議長 伊藤隆信 様

会派名 創政会

代表者名 梅村 均

質問作成応用研修（地方議員研究会）報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 令和3年11月8日（月）

2 研修先 音声受講

3 出席人数及び氏名

1名	梅村 均	

4 復命事項

別紙のとおり

地方議員研究会 質問作成応用研修報告書（創政会）
～門外不出 質問作成虎の巻～

作成者：梅村均

【日 程】 令和3年11月8日（月）

【場 所】 音声受講

【参加者】 梅村均

【講 師】 村山祥栄氏（大正大学地域構想研究所客員教授、前京都市会議員）

【内 容】

（極意）

- ・情報収集に始まり、情報収集に終わる。
→当局へのヒアリングの徹底、類似事例の調査、過去の質疑の調査、導きたい課題解決策を
→情報収集は、政務調査課、図書室の活用。ネット検索からの自治体への問い合わせなどで。
- ・当局の知らない独自の情報を入手すること。
→アンケート調査、現地調査、当事者ヒアリング、行政ヒアリングなどで。
- ・角度と論理構成を変えれば良質な質問になる。現状、課題、根拠、公平性の観点など様々な角度で質問を考え、目的達成へと導くシミュレーションを準備する。
- ・霞が関の権威を利用する。国の通達、他都市の判断、業界の権威などを織り交ぜる。
- ・一回きりで終わらせない。毎議会ごとに進捗質問もよいが、全く同じではなく角度を変える、新たな事例紹介など何等か付け加えるなど工夫は必要。
- ・役所の痛いところを突く。調べてわかることは聞かない。
- ・常識を覆す意外性要素を入れる。
- ・基本的に折れないことが大切。一時的に関係は悪化するがそのうち戻る。折れるなら取引を。

（質疑について）

- ・数字を織り交ぜる。論理構成がしっかりしている。みんなと違う視点から着目する。誰もが「その通り」と思わせる部分を作る。独自の情報を織り交ぜる。
 - ・心理戦を駆使する。ほめてから攻める。反撃されたら「ありがとう」。ラベリング効果、ピグマリオン効果、ゴーレム効果など
 - ・切り返しのポイント：必殺キーワードは「議会軽視」「公平性の観点」。条文、通達、原則、過去の答弁を引きずり出して。
 - ・自身をブランディングする。
 - ・質疑後は政策実現に向けて行動する。職員と議論、世論形成、他の勢力の利用など
- （質疑を生かした広報の向上）選挙と政策は無関係と言わせないように
- ・質疑後の広報づくりのポイント
→役所の広報紙のトレースは NG。自分にしか書けない原稿を。書きたいことより読みたいもの（質問原稿など誰も読みたくない）。読みたくなるような見出しの工夫。
 - ・SNS：速報性とニーズを重視
 - ・チラシ：ニーズを重視。必ずしも前議会での報告である必要はなし。時事などニーズに合ったものをリリースすべき。まとめると抽象的になりがちなので注意。

（統計について）

- ・都合のより統計に騙されてはいけない。統計は真実とは限らない。
- ・統計は作り方次第で都合よく作りあげられる。
- ・なるべくバイアスをかけない世論調査が行えると良い。

(最後に)

- ・質問は議員の晴れ舞台。
- ・質問を通じて議員のブランディングを。広報を通じて選ばれるブランディングを。
- ・広報の手法と自分のルールを決めるとよい。
- ・庁内、庁外問わずファン構築を積極的に行うこと。

【所 感】

質問作成において、情報収集の手法や大切さを学ぶことができた。また政策実現に向けて、様々な角度からの質問づくりを練る必要がある。今後の質疑や質問作成に活かしていきたい。広報紙においても定型にとらわれることなく、質疑を生かした広報づくりを心掛け、市民のニーズを最優先にした広報に努めていきたい。